

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

健康を見つめ・つくる子 活かし・広げる子  
 ○自ら学ぶ楽しさを身に付け、自ら解決する力を育てます。〔知〕  
 ○自他のよさを実感することで、すこやかな心を育てます。〔徳〕  
 ○自他の生命を尊び、自らの体を見つめ、進んで健康な体づくりに取り組む姿勢を育てます。〔体〕  
 ○地域の一員として、「ひと・もの・こと」に積極的ににかかわり、自分たちのまちに愛着をもつ子どもを育てます。〔公〕  
 ○国際社会に視野を広げ様々な「ひと・もの・こと」にかかわり、進んでコミュニケーションを図る子どもを育てます。〔開〕

教育課程全体で  
育成を目指す資質・能力

課題解決力  
コミュニケーション能力

具体化した資質・能力

課題をとらえる力 課題と向き合いかわる力  
 相手意識をもって表現する力 よりよい生活をつくらうとする力

中期取組目標

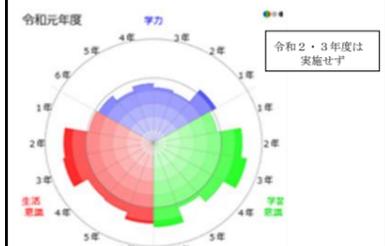
「様々な連携の推進による学校力の向上」「積み重ねてきた健康教育の成果を生かしながらの、新たな教育課題への積極的取組」「生き方につながる資質・能力の育成」を推進していく。  
 ○本校の特色である健康教育の実践を通して「自ら考え、ともに学び合う子どもの育成」の実現を目指す。  
 ○PTAや地域と連携・協働してきた活動を推進し、家庭及び地域の教育力を積極的に活用して学校力のさらなる向上を図る。  
 ○社会に開かれた教育課程を編成、運営・改善し、未来に向かってたくましく生きていく「まかどっ子」を育成する。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業改善	①体育科を中心とした研究活動を通して「問題解決とコミュニケーション」を大切に授業づくりに取り組む。②そこから得た課題を他教科にも波及させ、主体的・対話的で深い学びを追究し、子どもたちにとって切実感のある課題設定や学習のゴールや目的意識がもてるような授業展開を工夫する。
担当	研究推進委員会

学力向上に関わる本校の状況

(1)学力にかかわる児童の実態  
 どの学年においても、生活意識や学習意識は市平均を上回っている一方、学力については下回っている傾向にある。前年度と比べてもその傾向は変わっていない。今後も、日々の学習において基礎的な学力をつけ、活用力を養うことが求められる。  
 ○国語科：「書く能力」「話す・聞く能力」について課題が見られる。  
 ○算数科：「技能」「数学的な考え方」に課題が見られる。  
 ○社会科：向上してきているが「技能」に課題が見られる。  
 ○理科：「技能」「思考・表現」に課題が見られる。



(2)これまでの学校の取組状況  
 長年体育科で研究を重ねてきた課題解決学習の手法を他教科にも応用し、児童が見通しをもち、学習内容を自分の課題としてとらえ、主体的にかかわれるように授業改善に取り組んだ。また、基礎学力の定着が児童の学習意欲に直結するもの一つととらえ、スキル学習に年間通じて取り組んできた。

今年度の目標

子どもたちが、課題解決学習を積み重ねることにより達成感を味わうことで、より学習に主体的に取り組む、様々なことに興味をもって学びを深められるようにする。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期  
 ○様々な解決方法や多彩な表現を引出すことができるように、見通しがもてるような単元構想、比較・関連付けができるような学習教材や資料の準備など、授業改善に日々取り組むことで、課題解決学習の充実を図る。  
 ○生活科等では身体表現などの表現を、社会科や総合的な学習等で見学・調査したことを説明する文章を書くなど、様々な表現方法や教科横断的な学習を意識するとともに、反対の意見を出したり、相手の考えを述べたりしながら話し合える場面をしっかりと位置付ける。  
 ○体験を通したり、くりかえし取り組んだりして自信をつけ、基礎学力の定着を目指すとともに、より深い学びにつなげられるようにする。  
 ○理科や社会科では、事実や資料を根拠として考える機会を保障できる場を確保する。  
 ○様々な学習活動において、「思考・判断」の根拠となる資料を教師が意図的に提示する授業を展開できるようにする。  
 ○総合的な学習等で説明する文章、意見を述べる文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに話し合う場面を位置付ける。  
 ○個別支援学級においては、教育支援計画・個別の指導計画に基づき、個々に応じた適切なコミュニケーション手段を積極的に活用し、言語環境の整備を行う。

下半期

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
道徳教育	①教師が受容的な姿勢で子どもたちとかわり、信頼関係に基づいた学級経営に取り組む。②道徳科年間指導計画に沿った授業公開を各学年1回以上実施する。③学級集団の中での様々な経験を通して子どもの自尊感情を高め、他者を受け入れる姿勢を育み、自他を大切にできる心を育てる。
担当	指導部 道徳部

豊かな心に関わる本校の状況

(1)豊かな心にかかわる児童の実態  
 本校の児童は、おおむね笑顔で明るい学校生活を送っている。とても人懐っこい面があり、心許せる間柄の人には自分から話しかけたり、まわりの人に話をしたり、困っている人の手伝いをしたりと、人のかかわりをもてる児童が多い。普段から落ち着いて穏やかに生活している。自ら積極的に相手に働きかけることはできるが、相手の話を聞いたり、思いを受け止めたりすることには、やや課題が見られる。日常生活の経験や道徳の授業などの場面を通して、道徳的価値について考え、その大切さを理解しているが、自分の思いを優先して行動したり、善悪を考えずに場の雰囲気で行動を選択したりする傾向が見られる。

※市学状等の客観的で適切な資料があった場合、のちに挿入すること。

(2)これまでの学校の取組状況  
 授業参観において、全学級、道徳の授業を最低年間に1回は家庭や地域に公開し、学校の取組について共有し、懇談会などで話題にしてきた。それをもとに家庭でのコミュニケーションのきっかけとしていただくことで、より効果がみられた。そのためには、道徳にかかわる校内研修を実施し、教師の研鑽を積み必要があり、道徳部を中心に研修を実施し、職員に情報発信をした。社会情勢により難しい面もあるが、1年生と6年生でのペア掃除を実施するなど、可能な範囲で異学年交流を実施した。

今年度の目標

他者とのかわりから、自分の思いや気持ちを受け入れられる経験を積み重ねることを通して自己肯定感を高め、他者の思いも大切にできる心情を育む。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期  
 ○授業参観での道徳の授業(年間1回)  
 学校での教育活動を共有し、家庭や地域でも授業を通じた児童へのかかわりをもてる機会をつくることで、同じ話題をもとにしたコミュニケーションから豊かな心を育むことができるようにする。  
 ○道徳にかかわる研修を実施し、教師の研鑽を積み。  
 ○異学年交流で他者受容の経験を通して自己肯定感を高められるようにする。  
 ・なかよし学年(ペア学年)の交流を日常に取り入れ、互いのよさに気付けるようにする。  
 例)給食支援:6年生のてきぱきとした行動・優しさ ↔ 1年生の一生懸命な姿  
 ・なかよし学年などの活動で異学年集団の活動を工夫し、充実させる。  
 「委員会活動」「クラブ活動」「なかよし集会」について、児童にその目的や年間の見通しをもたせ、自主的、意欲的に取り組めるようにすることで、活動の一層の充実を図る。  
 ○誰にとっても安心して自分を表現し安全に生活できるように人権意識を育む機会をもつ。  
 全学年:人権週間の活動 4年:弁護士によるいじめ防止教室  
 5年:いじめに関する道徳授業 山手警察によるサイバー犯罪防止教室  
 6年:山手警察署による非行防止教室  
 ○年3回のYPやアンケートから一人ひとりの気持ちに気付き寄り添うことができるようにする。

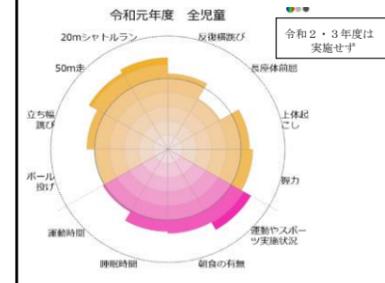
下半期

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育	①基本的な生活習慣の確立や主体的に運動に取り組む子どもの育成を図るために、TV放送を活用した意図的・計画的な指導を行う。②「歯みがき週間」「長なわ大会」「すこやかタイム」の継続的な実施により、生涯にわたって健康に生活するための意識を高めたり、体力向上に進んで取り組めるようにしたりする。
担当	すこやか委員会

健やかな体に関わる本校の状況

(1)健やかな体に関わる児童の実態  
 朝食の摂取率が高く、毎日喫食している子どもがほとんどである。また、睡眠時間についても長く睡眠をとっている子どもが多い。体育授業以外の運動に関わる時間や回数については、学年によってばらつきが見られたり、長時間運動をする子どもと、30分未満の子どもの二極化も見られたりする。健康や運動に楽しみながら主体的に関わろうとする意識が高まっている。



(2)これまでの学校の取組状況  
 本校は長年にわたり体育科の授業研究を中心とした健康教育に取り組んできています。また、家庭科や保健学習と関連を図り、栄養教諭と協働して食教育の取組を計画的意図的に行っている。さらに、児童の活動として「すこやか委員会」があり、心と体の健康について児童が自分ごととしてとらえ課題解決のための活動を計画し実施してきた。

今年度の目標

児童一人ひとりが、日々の積み重ねが自分の健康につながることを理解し、心と体にとってよりよい生活をつくらうとする。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期  
 「すこやか活動」の継続  
 ・4年生以上の学級代表が参加する「すこやか委員会」を毎月1回開催  
 学校における健康や安全に関わる課題について、話し合いを通してその解決に向けて取り組む。  
 ・毎月1回の月曜日の「すこやかテレビ」の実施  
 季節や時期に応じた健康に関する情報を子どもにも提供する。  
 ・毎月1回のTV放送「ばくばくチャレンジ」の実施  
 栄養教諭が子どもの実態に応じた食育を進める。  
 ・火・金曜日の計画された日の「すこやかタイム」や「長なわ大会」  
 中休みの1モジュールを使って、体を動かす遊びや体づくりに取り組む。  
 ※社会情勢によって、予定を変更する可能性あり。  
 ・年3回「学校すこやか委員会」の実施  
 日頃の生活から課題を見つけ、子ども・保護者・職員・学校医が、健康に関する提案を行う課題解決に向けて話し合い、活動を計画実施する。  
 ・月1回の「歯みがき週間」の実施 ※実施できない場合あり

下半期